

レインボー保育園 <令和１年度保育所の自己評価>

職員を対象に、本年度の当園の運営や保育内容等についての自己評価（方法：自己評価票への記載）を行ないました。
改善を要する事項等については、検討会を実施の上、改善に向けた取り組みをすすめていくこととなりました。

実施期間	評価方法（各項目について、A～Dを記入）				対象
令和2年 1月21日～2月7日	たいへんよい A	よい B	一部検討を要する C	改善を要する D	正規職員 全18名

<それぞれの観点について①>

自己評価の観点		評価（％）				
		A	B	C	D	未記入
1 園の保育理念や保育目標について						
①	職員一人一人が、レインボー保育園の保育理念・保育目標を理解している	11.1	77.8	5.6	0	5.6
2 保育全般について						
①	一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている	16.7	72.2	11.1	0	0
②	子どもに関する諸記録を集積している	61.1	33.3	5.6	0	0
③	園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるよう配慮している	27.8	66.7	5.6	0	0
④	気候や子どもの活動にあわせ、温度・湿度・換気・照度などを配慮している	38.9	61.1	0	0	0
⑤	季節の草花を飾るなど、保育の中で子どもが季節感を感じるように配慮している	33.3	50.0	16.7	0	0
⑥	行事の種類や実施回数は適切である	33.3	55.6	5.6	0	5.6
⑦	行事は計画的に実施され、反省点が生かされている	44.4	55.6	0	0	0
⑧	子どもの主体性を大切にしたい保育をしている	0	61.1	33.3	0	5.6
⑨	子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮ができています	5.6	77.8	16.7	0	0
⑩	それぞれの子どもに関する必要な情報を共有している	61.1	27.8	11.1	0	0
⑪	特別な配慮を必要とする子どもには、その子に応じた保育計画を立てている	38.9	44.4	16.7	0	0
⑫	職員間で、保育についての話し合いをよくしている	27.8	44.4	22.2	5.6	0
⑬	職員は、それぞれの役割を把握し、適切な動きができています	27.8	44.4	22.2	5.6	0
3 健康管理について						
①	日々の園児の健康状態を観察し、一人一人の体調に合わせた保育を心がけている	61.1	38.9	0	0	0
②	玩具・遊具等については、常に衛生的に保持している	55.6	33.3	11.1	0	0
③	乳幼児突然死症候群（SIDS）や感染症等の予防や対策のマニュアルが整備されている	55.6	44.4	0	0	0
4 保健・安全指導について						
①	各クラス運営に生かされるような具体的な保健対策を講じている	0	94.4	5.6	0	0
②	避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施している	83.3	16.7	0	0	0
③	事故や災害に適應できるマニュアルをすぐに見ることができるようにしている	27.8	72.2	0	0	0
5 食育について						
①	季節や子どもの年齢に合わせた食育計画を立てている	77.8	22.2	0	0	0
②	食育を通して子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫している	61.1	38.9	0	0	0
③	旬のものや季節感のある食材を用意し、食文化を伝える工夫をしている	61.1	33.3	5.6	0	0
④	調理担当者と子どものコミュニケーションが図られるようにしている	27.8	61.1	11.1	0	0
⑤	栄養士と保育士等が連携し、会議等で意見を交わしながら、より良い給食になるよう努めている	72.2	27.8	0	0	0

<それぞれの観点について②>

自己評価の観点		評価 (%)				
		A	B	C	D	未記入等
6 保護者支援について						
①	保育士等は保護者との信頼関係を築こうと働きかけている	61.1	33.3	5.6	0	0
②	子どもの送迎時等に保護者と子どもの様子を伝え合うようにしている	50.0	50.0	0	0	0
③	クラス懇談会や個別面談を行っている	83.3	16.7	0	0	0
④	入園説明会やクラスごとの懇談会等では、保育内容や目的をわかりやすく説明し、情報提供を行っている	72.2	27.8	0	0	0
⑤	保育参観等の機会を設け、保護者に保育内容を理解してもらおう工夫をしている	77.8	16.7	5.6	0	0
⑥	子どもの心身の発達や育児の不安等について、気軽に相談できるようにしている	44.4	44.4	11.1	0	0
7 研修・研究について						
①	実践研究に取り組み、日常の保育に生かし、子どもの育ちに反映させている	11.1	72.2	16.7	0	0
②	職員が施設内外の研修に参加できるよう計画されている	38.9	50.0	11.1	0	0
③	研修報告を園内で実施している	38.9	61.1	0	0	0
8 情報の管理や公開について						
①	園児の個人記録は適切に保管されている	66.7	27.8	5.6	0	0
②	園内で知りえた事項について、守秘義務を徹底している	77.8	16.7	5.6	0	0
③	掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用している	44.4	55.6	0	0	0
④	園だより、ホームページ等で、情報発信に努めている	83.3	16.7	0	0	0
⑤	行事や子育て支援の情報について、地域に向けて発信している	77.8	22.2	0	0	0
9 開かれた保育所づくりについて						
①	園庭等を地域の親子等に開放している	88.9	11.1	0	0	0
②	地域の子育て家族に対して育児相談等を実施している	44.4	55.6	0	0	0
③	医療、療育、学校、児童相談所、福祉保健センター等の関係機関と連携を図っている	55.6	38.9	0	0	5.6
④	中高生の職場体験や実習生の受入れについて、その意義や方針を職員が理解している	55.6	27.8	11.1	0	5.6
⑤	定期的に小学校（小学生）と交流する機会がある	72.2	16.7	11.1	0	0
⑥	定期的に高齢者と交流する機会がある	94.4	5.6	0	0	0
⑦	職員は、来客や地域の方々に明るく挨拶している	55.6	38.9	5.6	0	0
10 運営全般について						
①	園長や主任・職員の役割分担と責任が明確にされ、園児や保護者への迅速な対応ができる体制がある	44.4	50.0	5.6	0	0
②	各種会議を適切かつ効率的にすすめている	50.0	50.0	0	0	0
③	各種会議では、どの職員でも発言しやすい雰囲気がある	16.7	50.0	33.3	0	0
④	施設内外の設備等の安全点検を計画的に行っている	50.0	50.0	0	0	0

～その他のおもな意見～

- ・一斉保育が多いので、子どもの主体性の保育に少しずつ変えていく必要がある。
- ・コミュニケーションの大切さを感じた1年だった。
- ・研修の報告は「そうだな…」と思う事が多いが、そこで終わってしまっていてもったいない。
- ・会議では発言するのに緊張してしまう。
- ・職場体験や実習は受け入れているが、その意義などについては、改めて職員間で共有する必要がある。

～考察～

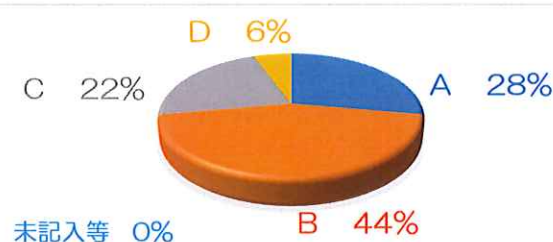
子どもの主体性を大切にした保育に関する設問では、「よい」と答えた職員が約 60%であったものの、「たいへんよい」と答えた職員は0%であった。また約 30%の職員が「一部検討を要する」とした。子どもとの接し方、保育計画や体制づくりなど、子どもの主体性をより大切にした保育をどのようにすすめていくのが課題となった。

問2-⑧ 子どもの主体性を大切にした保育をしている



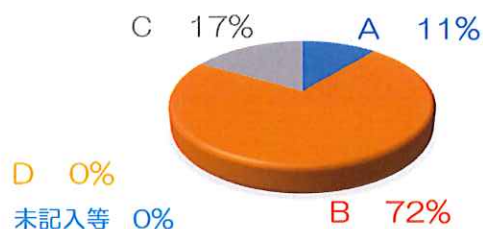
職員間での十分な話し合いに関する設問では、約 70%の職員が「たいへんよい or よい」としているものの、約 30%の職員は「一部検討を要する or 改善を要する」としている。コミュニケーションの大切さ、難しさを改めて学んだ 1 年だった。今後、各人が心がけていくことはもちろん、円滑なコミュニケーションのための仕掛けづくりも課題となった。

問2-⑫ 職員間で、保育についての話し合いをよくしている



保育の実践研究や日常への反映に関する設問では、83%の職員が「たいへんよい or よい」とした一方で、17%の職員が「一部検討を要する」とした。よこはま保育フォーラムでの実践発表なども行ったが、日々の取り組みの振り返りや課題抽出として意義のある機会となった。園外研修などで知る最新の知見や実践例を園内の保育に取り入れていくことも重要であり、柔軟さが求められている。

問7-① 実践研究に取組み、日常の保育に生かし、子どもの育ちに反映させている



各種会議における職員の発言のしやすさに関する設問では、約 70%の職員が「たいへんよい or よい」とした。一方で約 30%の職員が「一部検討を要する」とした。また“緊張してしまう”、“発言する人がいつも同じ”などの声もあった。柔軟な発想で前向きな議論をするための工夫や雰囲気づくりが課題となった。

問 10-③ 各種会議では、どの職員でも発言しやすい雰囲気がある

